

光信公ゆかりの地紀行7

長勝寺と禅林街 ～弘前お寺めぐり～



光信公
津軽藩始祖
入部530年

大浦光信を始祖とする津軽藩の城下

町弘前。江戸時代約260年にわたって津軽地方の中心地となったこの町に、実は、鱒ヶ沢町種里と関わりをもつお寺が多いのをご存じでしょうか。

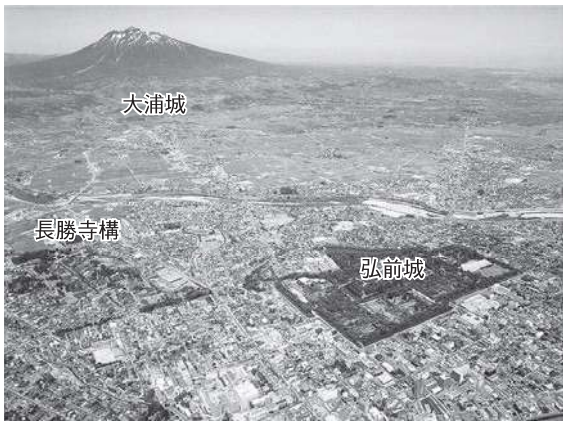
弘前城の南西、西茂森には、長勝寺を中心として曹洞宗寺院三十三カ寺が立ち並び「禅林街」と呼ばれています。寺は、弘前城の築城と同時期に領内各地から集められ、土塁や堀を設けて寺院街そのものを城の守りとしたことから「長勝寺構」とも言います。

今回は、禅林街のお寺の歴史をひも解きながら、弘前にある光信公ゆかりの地を訪ねてみることにしましょう。

■光信公の寺・長勝寺

禅林街の中心、一番奥に鎮座するのが津軽家の菩提寺である長勝寺です。

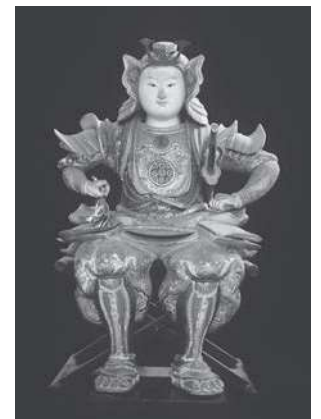
長勝寺は、大永6年(1526)に光信が没した後、2代目盛信が父の菩提を弔うために種里に創建した寺とされます。光信公の戒名「長勝隆栄大居士」から二字をとって長勝寺と名づけられました。寺が建てられた場所は、種里城主郭の南、現在は杉林となっている通称「門前地区」であったとされています。その後、大浦氏(津軽氏)の本拠地の移転に伴って、種里から大浦、ついで堀越、弘前へと移ってきました。つまり長勝寺は、もともと種里に



弘前市航空写真 (弘前市教育委員会提供)



太平山長勝寺 (弘前市西茂森)



大浦光信像 (長勝寺蔵)

あった光信公のお寺だったのです。現在も長勝寺には、享保10年(1725)の光信公200年忌を記念して制作された光信木像が安置されています。

■海蔵寺

禅林街の黒門をくぐって左側2番目にある海蔵寺も、光信公ゆかりの寺です。海蔵寺は、光信が岩手県久慈から種里城に入部後、先祖の菩提寺として建立した寺とされます。

海蔵寺も、後に長勝寺と共に種里から大浦へ移り、さらに、大浦から弘前に移りました。種里の海蔵寺があった場所は不明ですが、種里集落内には「海蔵寺開創の地碑」(昭和57年・海蔵寺建立)が建てられ、現在も関係者のお参りが続けられています。

■鳳松院

黒門から右側2番目の鳳松院の山号は「種里山」。その名のとおり種里にあった寺です。津軽為信により種里村に創建され、弘前城築城とともに弘前に移ったとされます。鳳松院が移った後、その跡地に建立されたのが種里集落に現在もある臥龍院とされています。



種里山鳳松院 (弘前市西茂森)



大浦山海蔵寺 (弘前市西茂森)

この他、清安寺も旧寺名を「松源院」と言い、長勝寺3代住職の隠居寺として、もとは鱒ヶ沢町赤石にあったとされます(現在の松源寺のある場所)。皆さんもきっと、弘前市のお寺を散策してみるだけで、光信公からつながる歴史の足あとに出会えることでしょう。ぜひ一度訪ねてみてください。

(町学芸員 中田)